

## エースになる方法

大学1、2年生の頃、コロナウイルスが流行し、まともに登校できない状況の中、私の大学生活がスタートしました。友人も少なく、あまり謳歌できない状況でしたが、そんな中で大きな変化をもたらしてくれたのがゼミナールでした。最初は首藤先生から出された課題を嫌々こなすことが日課でした。しかし、その課題に取り組むうちに、いつの間にか知識がついたり、話す力が向上したりと、自分が成長していることに気づきました。できなかったことができるようになった時の喜びを感じることができました。この変化は単なるスキルの向上だけでなく、自己肯定感やコミュニケーション能力の向上にもつながりました。初めは苦手だった課題が、徐々にクリアできるようになる過程で、自分の成長を実感することができました。また、他のゼミメンバーとの協力やアイデアの共有を通じて、自分のアウトプットがより豊かになっていくことを実感しました。

さらに、3年生の途中からは、ゼミを通してただ成長するだけでなく、仲間を引っ張って成長できる存在になりたいという思いが芽生え、首藤ゼミにおける「エース」になることを宣言しました。最初は軽い気持ちの宣言でしたが、「エース」という言葉を繰り返し用いるうちに徐々に責任感が芽生え、「エース」としての自覚と覚悟が固まってきました。「自分が良ければそれで良い」という考え方から、少しずつ「周りのために」という視点に立つ機会が増えてきたことは、自身にとって大きな成長だったと感じています。

首藤ゼミで、リーダーシップや仲間との協力の大切さを学び、自らの行動がチーム全体に影響を与えることを理解するようになりました。「エース」としての役割を果たす中で、他のメンバーのサポートや導きが求められ、その中で成長できることがとても魅力的でした。また、現在は私が「エース」宣言をしているのを見た後輩が「次世代のエースは俺だ」と宣言しています。「エース」という存在に憧れをもってもらえたことが、純粹にすごく嬉しいです。

正直、ゼミにおける「エース」がどういった存在なのか、いまだによく分かりません。ですが、誰かの憧れの存在になれたことが「エース」をしていて一番良かったと思えた瞬間でした。このような貴重な機会や成長できる環境を提供してくれた首藤ゼミには本当に感謝しています。今後も、誰かの憧れでいられるような「エース」であり続けたいと思います。首藤ゼミで、次世代のエースが次々と育ち、社会の荒波の中で一緒にコラボできる日がくることを心待ちにしています。

2024年3月15日

首藤ゼミ初代エース

佐藤 隼之介